視点・論点①

小牧基地への空中給油機配備を許すな！

山本みはぎ

二月二九日、ボーイング社の各種試験の遅れでアメリカ連邦航空局の機体の安全性に関する証明取得の遅れから納入が一年も延長されていた、空中給油輸送機（ボーイング767）の一号機がついに航空自衛隊小牧基地に配備された。三月一四日には二号機が配備され、〇八年度に一機、〇九年度末には更に一機が配備され計四機体制で運用される。これに伴って、〇八年度末には、運用するための新部隊「第404飛行隊」（仮称）を一四〇人規模で発足させるという。言うまでもなく、空中給油輸送機は、空中でF15などへの戦闘機に給油ができるもので、戦闘機の航続距離・航続時間が飛躍的に拡大し、日本国外・領域外での戦闘行動を前提に配備されるものだ。また、輸送機としての機能も、今のC130輸送機と比較しても巡航速度、飛行距離も増し、積載能力も一・五倍、二〇〇名の人員を運ぶことができる。

私たち、不戦ネットは、県・周辺自治体・周辺住民などの働きかけはもちろん空中給油機導入に反対する様々な行動を続けてきた。小牧基地の滑走路は愛知県が設置管理者になる県営名古屋飛行場の滑走路で、隣接するのは、小牧市・春日井市・豊山町（名古屋市も一部含まれる）である。この二市一町は、かつては「基地の機能強化になる」と導入に反対の姿勢を見せていたが、防衛施設庁（当時）の空中給油機の配備は「輸送業務」なので、これまでの業務とは変わらない、というごまかしの説明に屈服し、受け入れを容認した、という経緯がある。一方県は、「周辺自治体の意向の尊重」を盾に、設置管理者としての責任放棄の姿勢に終始している。

二月二三日、「くるな給油機　2・23大行進」を呼びかけ、昨年に引き続き、小牧基地三分の二周、約七キロのデモを行った。当日は、小雨まじりの悪天候だったが、浜松からの参加者も含め、途中の三菱重工小牧南工場への申し入れ、エアーフロントオアシスでの集会、最後に小牧基地申し入れを行った。因みに、三菱重工業小牧南工場は、戦闘機の修理などを行い、昨年一〇月にはここで修理点検をしていたF2戦闘機が滑走路で墜落・炎上するという事故もおきている。また、三菱重工北工場では、ミサイル防衛のPAC3ミサイルのライセンス生産も行っているという日本最大の軍需産業ということは周知のことだ。配備当日の二九日も小牧基地への申し入れと、空港南側での抗議行動を行った。

新聞によると、現在、名古屋飛行場側にある管制塔を基地側に移転する、という計画を防衛省は来年度予算に盛り込み、真相は定かではないが、その事実を県は知らなかった、という報道をしている。航空管制は、中部新空港への移転に伴い国交省から防衛省に移っている。この点についても、私たちは再三、基地機能強化に当たるのではないかという指摘をしてきた。また、〇八年度の愛知県の予算には「航空宇宙産業研究開発施設用地の購入、環境適応型高性能小型航空機（国産ジェット旅客機）研究開発への支援、（独）宇宙航空研究開発機構（JAXA）の飛行研究施設の誘致」を盛り込み、「航空宇宙産業研究開発施設用地購入費用」として、四億七、八四二万円を計上している。これは、県が空港の敷地の一部を買い取り、三菱重工業に誘致をするというものだ。

小牧基地は、PKO派兵以来空の派兵拠点として機能し、現在も、クウェートにC130機と航空自衛隊員約二〇〇人が行き、イラク国内への米軍の物資・兵員輸送を継続し、戦争加担を続けている。空中給油機の配備や、小牧基地を巡る動きは小牧基地の空の派兵拠点としての役割を更に強化するものであるばかりか、米軍との一体化を進め、日本の航空自衛隊の役割自体も変えるものである。私たちは、今後も県への質問状の提出など機能強化に反対し、これ以上、空の派兵拠点にするなという声を上げていきたいと思う。

（やまもと・みはぎ／不戦へのネットワーク）